

令和3年第45回 宮城眼科先進医療研究会

日時 令和3年5月26日(水) 19:00-20:00

場所 東北大学医学部 眼科学教室 (WEB開催)

プログラム

1. 代表世話人挨拶

2. 特別講演

座長：小林 航 先生

演者：京都府立医科大学、Buck Institute for Research on Aging

北澤 耕司 先生

『 人生100年時代を見据えた眼科医療の挑戦 』

北澤 耕司 (きたざわ こうじ)

略歴

平成16年 京都府立医科大学 卒業

平成16年 済生会吹田病院 臨床研修医

平成17年 京都府立医科大学附属病院 臨床研修医

平成18年 京都府立医科大学附属病院 前期専攻医(眼科)

平成19年 町田病院(高知県) 眼科医員

平成20年 バプテスト眼科クリニック 眼科医員

平成23年 京都府立医科大学医学系研究科視覚機能再生外科学
大学院博士課程

平成24年 京都大学 iPS 細胞研究所 国内留学

平成27年 バプテスト眼科クリニック 医長

平成29年 バプテスト眼科クリニック 眼科診療部長

平成30年 京都府立医科大学北部医療センター 眼科医長

平成31年 日本学術振興会 海外特別研究員

米国 Buck Institute for Research on Aging, Visiting scientist
現在に至る

3. 閉会の辞

宮城眼科先進医療研究会
人生 100 年時代を見据えた眼科医療の挑戦

京都府立医科大学、Buck Institute for Research on Aging
北澤 耕司 先生

抄録

医学は感染症の対策や治療の探求により発展してきた。抗生物質・抗ウィルス薬、またワクチンの開発により急性感染症疾患が減少し、人類の平均寿命は延長し、それに伴い慢性退行性疾患が増加している。そのため、先進国では心疾患、癌、脳卒中が最大の死因となっている。一方で眼科の分野ではどうか。白内障がかつては中途失明原因の第一位であったが、その後糖尿病網膜症となり、現在は緑内障が糖尿病網膜症を抜いて第一位となっている。このようにいつの時代でも unmet medical needs は変化していく。より良い医療への発展を遂げるためには、診断・治療（薬物および手術）法の改善を常に求めていく必要がある。

私は米国に 2 年前に留学し、現在、眼の基礎研究に従事している。研修医の頃は自分が、まさか海外留学して基礎研究をしているとは夢にも思わなかった。今回の講演では、そんな私が、日々の臨床での疑問や問題を解決するために行ってきた、私なりの眼科医療への挑戦についてお話ししたい。